

2025年 3月 13日

草津市議会議長 西村 隆行 様

草津市議会会派 みらいの風
会長 八木 良人
草津市議会会派公明党
西垣 和美

草津市議会 みらいの風と公明党会派合同の2024年度政務活動費実施研修（会派研修）について、下記のとおり報告いたします。

記

【日時】 令和7年2月12日（水）～2月14日（金）

【場所】

- 1 大田区産業プラザ・こども環境サミット（東京都大田区）
- 2 川崎市こども夢パーク（神奈川県川崎市）
【担当：認定NPO法人フリースペースたまりば 西野博之】
- 3 中野区児童相談所（東京都中野区）
【担当：中野区児童相談所所長 古川康司】
- 4 景丘の家（東京都渋谷区）
【担当：社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会 石嶋瑛一】 【担当：社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会 本橋理恵子】
【担当：社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会 澤木眞実】

【参加者】 草津市議会会派 みらいの風 八木 良人 藤本 あき
公明党 西垣 和美

【研修概要】 こども環境サミットでは、地域社会の中でさまざまな関係者が連携しながら、こどもたちと地域にとって豊かな未来をつくっていくために何ができるか、そうしたヒントをこのイベントを通して考えました。川崎市こども夢パークでは、こどもの遊び場としての施設の機能、運営方法、地域との連携など、児童福祉施設のモデルケースとしての調査研究をしました。みらいステップなかの（複合施設）にある中野区児童相談所では、こどもの相談支援体制、児童虐待防止対策、多様なニーズに対応する児童福祉サービスの現状把握を聞きました。また、渋谷区こどもテーブルの景丘の家では、親、学校だけでなく、こどもと大人が学びあう第3の場所の現場を視察しました。

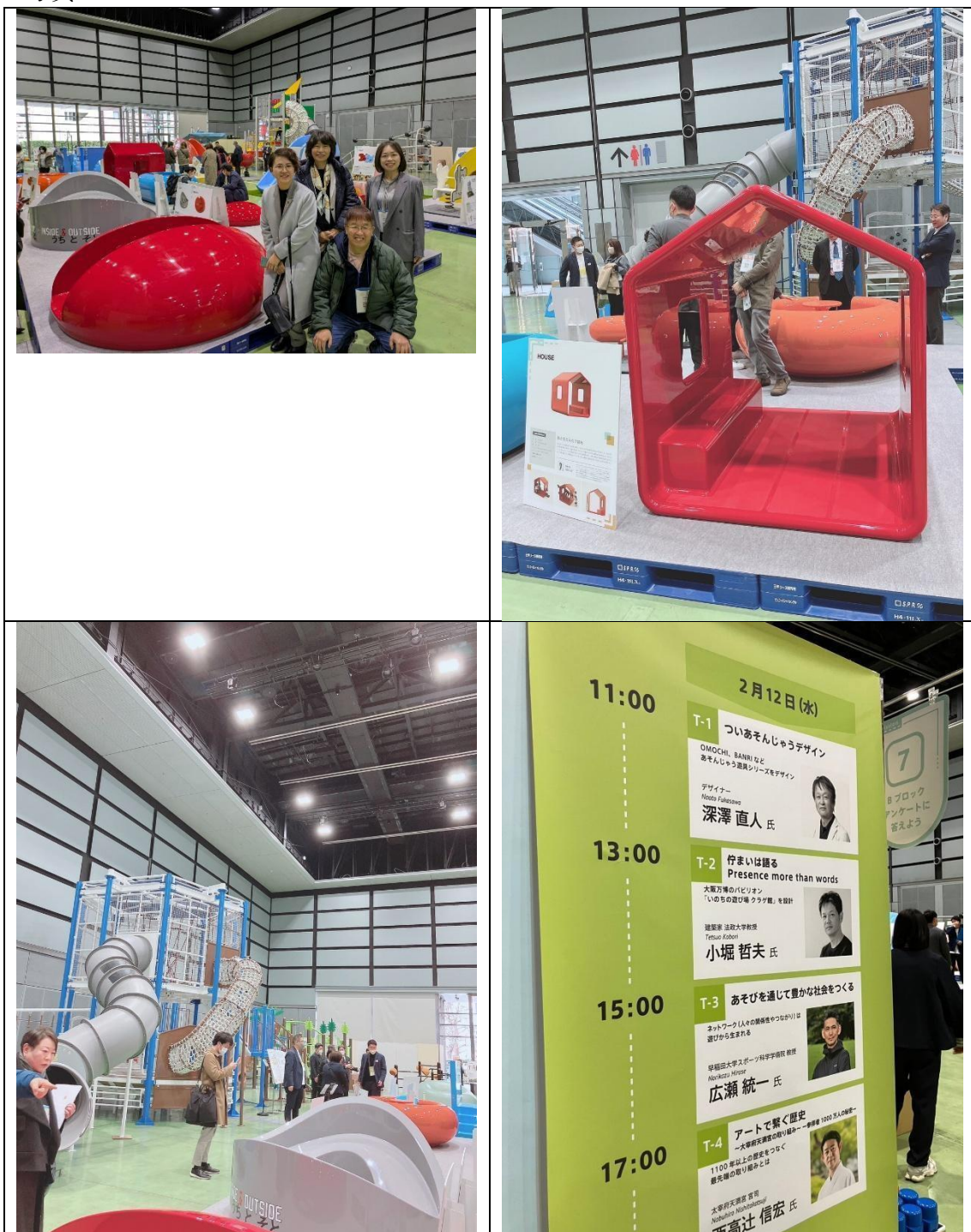
上記施設の視察を通じて、会派として児童福祉の現状と課題を深く理解し、より効果的な政策立案に繋げてまいります。

1 大田区産業プラザ・こども環境サミット（東京都大田区）

講演①	タイトル	ついあそんじゃうデザイン
	日時	2月12日（水）
	講師	深澤 直人
	内容	こどもたちはそこにあるものであそんじゃう。だから大人はこどもたちが自然と体と心をととのえる「環境」をデザインすることが大切です。 深澤先生は、人が無意識にしてしまう行動を形にするデザインを行っています。遊びを通じた学びを支えるためには、大人が一方的に「正解」を決めるのではなく、こどもたちが創造力を発揮できる場を大人がどのようにデザインするかが重要です。 また、人を動かすのは「感動」であり、正論や倫理だけでは幸せになれません。孤独を感じる現代だからこそ、次世代のこどもたちの力となるデザインが求められます。全体の調和を大切にしながら、自由で偶然性を含むデザインが、新しい遊びや環境との関わりを創出できます。

講演②	タイトル	子育てとまち育て～松場夫妻の石見銀山での取り組み～
	日時	2月14日（金）
	講師	松場大吉・登美 夫婦
	内容	講演では、石見銀山の小さな町で40年間まちづくりについて学びました。アパレルメーカーを立ち上げ、古民家再生や地域に力を注いでいます。 彼らは「人が育つ環境こそが教育」と考え、若者や地域に投資をしています。町の暮らしを大切に、「見えない価値」を重視してきました。理念をベースに、経済と社会性のバランスを取りながら事業を展開し、地域に根差した活動を続けています。 「遊びを極めると仕事になる」という確信のもと、暮らしのデザインを追求し、持続可能なまちづくりを実践しています。 さらに、保育留学や大人留学、石見銀山での暮らしを体験できる場を提供。70歳を超えても新たな事業を立ち上げ、地方創生に貢献しています。「想えば成る」という信念を胸に、次世代に希望をつなぐ活動を続けています。

《写真》



2 川崎市こども夢パーク（神奈川県川崎市）

2025年2月12日（水）

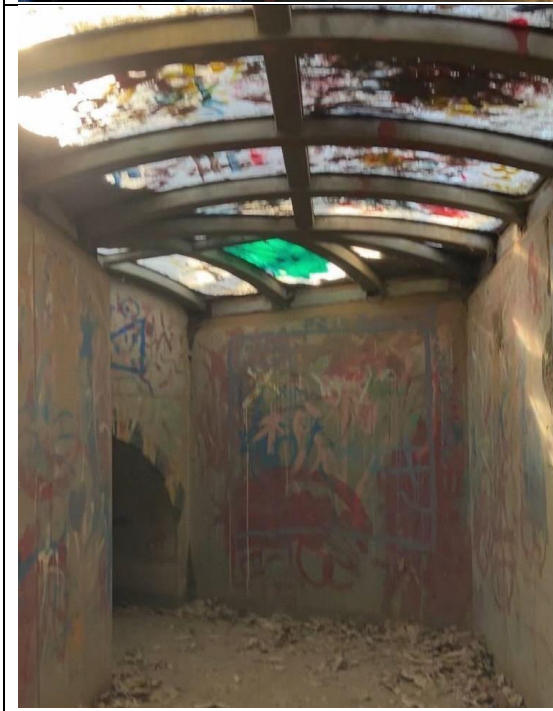
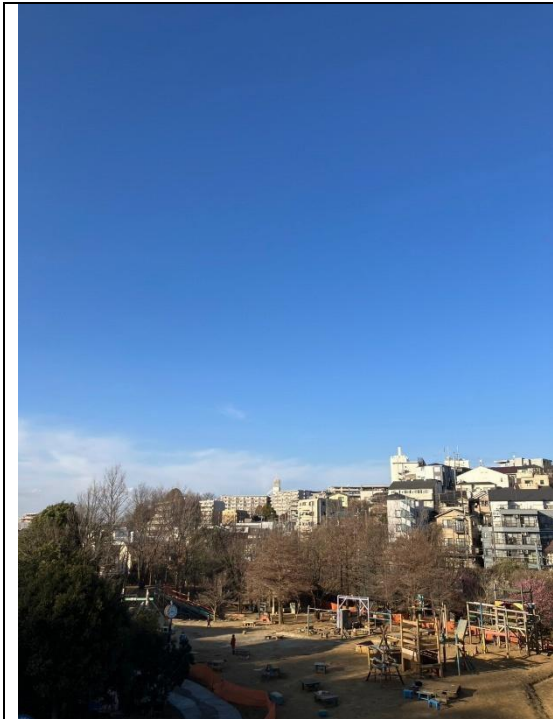
川崎市こども夢パークを視察しました。こども夢パークは、こどもたちの自由な遊び、のびのびとできる環境とフリースクールを提供する施設であり、特に泥んこ遊びやたき火など、自然の中での体験を大切にしている点が特徴です。

このパークの設計には、こどもたちの意見が反映されており、大人が一方的に作るのではなく、自分たちで遊び場を考え、形にするための仕組みが整備されていました。また、川崎市では「こどもの権利条約」を日本で初めて制定し、市政に積極的に取り入れ、こども議会による政策提言を毎年行うことが制度化されています。

草津市においても、こどもたちにとって自由に遊び、創造力を発揮できる環境づくりが求められます。そのためには、こどもたちが過ごしたい場や遊びに関してこどもの声を聞き、彼らの意見を政策に反映させる仕組みが必要です。

《写真》





3 中野区児童相談所（東京都中野区）

2025年2月13日（木）

中野区こども若者支援センター「みらいステップなかの」を視察し、中野区児童相談所所長の古川康司氏より「こどもの夢と希望を実現するために」というテーマでお話を伺いました。中野区では平成25年から区での児童相談所（以下、児相）を開設したい思いがあり、「新しい中野をつくる10年計画」には児相の充実・強化・移管を明記し、実現に向けて、区外の児相へ職員派遣を積極的に行っていました。

視察した「みらいステップなかの」は、辛い経験をしたこどもに「よくきたね」と受け入れられる明るいイメージの保護所を目指しています。そのために、アドボケート（こどもの権利擁護支援）制度の導入や、児童福祉司・児童心理司など専門職の確保・育成に力を入れていました。また、警察・児相・検察がこどもに何度も話聞くのではなく、こどもへの負担を軽減するために、一度の聞き取りで対応できる設備や環境づくりが行われていました。

《写真》



4 景丘の家（東京都渋谷区）

2025年2月14日（金）

渋谷区では、こどもの健全な育成と第三の居場所づくりを目的に、「こどもテーブル事業」を推進しています。2025年1月時点で127団体が登録されています。

渋谷区は多くのこどもが習い事や中学受験に忙しい環境です。そのため、「こどもテーブル」は、こどもがこどもらしくいられる貴重な場となっています。例えば、「やずびょんち」では食事提供や大学生との交流、「ささはたっこ」では料理体験が行われ、世代を超えた交流も生まれています。視察当日も養護施設を卒所した若者のための服や食器の譲渡会の準備をされていて、幅広くこども若者のつながりや支援の場となっていました。

社会福祉協議会の子ども支援課こどもテーブル係が中心となり、公的施設の活用や、企業との連携によるSDGs推進など、多様な支援が展開されています。

《写真》





※草津市議会会派みらいの風の八木議員は公務のため2日目の夜に帰宅し、3日目は西垣議員と藤本議員の二人で視察した。

5 所感

今回の視察においては、「こどもまん中」を実現するための先進的な取り組みについての研修でした。

社会情勢や時代の変化で、こどもが置かれている環境は複雑多岐であり、こども施策は多様化・複雑化に応じ、また、こどもの意見をすべての施策に反映させることが必須となっています。こどもを最優先に考え、支援の在り方を考えることが求められています。

川崎市のように、こどもの意見を最優先に継続して取り組んでいることや、中野区の児童相談所設置の取り組みは、草津市においても今後反映すべきものとして大変参考になりました。また、遊びの環境づくりがこどもの豊かな発達に影響すること、いわゆる環境によってこどもの育ちが変わる、変えられる、ということは多くの研究によってのエビデンスがあり、屋外の遊びや遊具設置について、示唆に富んだ研修でした。

草津市においては、こども支援について様々な取り組みが実施されているところで、子育てしやすいまち、として評価もされていますが、今後はこどもが安心して話せる環境づくりや、専門職の充実、居場所づくり、こども自身が意見を言いやすい仕組みの整備が必要です。

今回の視察を参考に草津市でも、一人一人のこどもに寄り添った、当事者の視点にたった施策や政策立案に反映できるよう、議論を深めていきたいと思いました。